

News Letter

No. 12

2025年3月発行

WEBサイトはこちら▼



お問い合わせ/広島大学大学院 人間社会科学研究所 教職開発専攻(教職大学院) 広報担当:伊藤 優
東広島市鏡山1-1-1 TEL:082-424-7166 e-mail:yitou@hiroshima-u.ac.jp https://kyoshoku.hiroshima-u.ac.jp/letter.html

初開催!

「学校の明日がもっとわくわくに! 経験年数を越えて、みんなで語って学び合い研修」よりレポートです

広島県立教育センターとの コラボ研修会

2月12日(水)、広島県立教育センターと広島大学教職大学院とのコラボ企画「学校の明日がもっとわくわくに! 経験年数を越えて、みんなで語って学び合い研修」を広島大学フェニックス国際センターミライクリエにて行いました(本学代表:伊藤准教授)。学校等におけるOJL(On the Job Learning:為しながら学ぶ)の促進をねらいとした研修に、新たに「アート」をかけ合わせることに挑戦した広島県で初となる研修でした。



グループでの即興演奏の様子

第1部「私を知る」では、自分の「気になるもの」をスマホで撮影したり仕事についての思いを色や形などで表現したりして、それらを他者と交流することで、自分の考えや価値観に気付くことができました(講師:池田准教授)。

第2部「あなたと私を知る」では、グループでの即興演奏を行ったり(講師:寺内准教授)、p4c Hawaii(ハワイ式子どもの哲学)を採用した話し合い活動を行ったりしました(講師:岡村准教授)。広島県内の小中高に勤める教職員や指導主事の方々と、本学院生に加え学部生も参加し、立場や年齢を越えて活動や対話をする中で、新たなものに気付き、創り出す体験をすることができました。

第3部「私の学びに気付き・つくる」では、本研修で行ったそれぞれのワークの背景にあった意図や理論が講師から説明され、その後、研修で学んだことを参加者全員で省察しました。

年齢も所属も異なる人々総勢40名が集まった研修でしたが、一日の活動を通していろいろなことが語り合える一つのチームになっていく。そして、語り合う中で、自分の価値観や考えがときほぐされていく。このような感覚が得られる研修会でした。



p4c Hawaiiを採用した話し合い活動の様子

年齢も所属も異なる人々総勢40名が集まった研修でしたが、一日の活動を通していろいろなことが語り合える一つのチームになっていく。そして、語り合う中で、自分の価値観や考えがときほぐされていく。このような感覚が得られる研修会でした。

執筆 重廣 孝 (教育実践開発コース1年)

修了生インタビュー

大学院での2年間で語っていただきました

中村●皆さん、ご修了おめでとうござい
ます。まずは高智さん、大学院生活で一番
頑張ったことについて教えてください。
高智●自分の研究とことごとく向き合う
ことです。最初、アクションリサーチ実地
研究で授業を考えて実施したけど全然
うまくいかなくて。だからこそ、それを
バネに文献を読んで理論を突き詰めて
いきました。そういう研究のプロセスが、
生活の中に常にともなっていましたね。
中村●まさに理論と実践の往還ですね。
君岡さんは、現職院生ですが、大学院に
入る前と後で考え方の変化などはあり
ましたか。
君岡●ありましたね。幼稚園の園内研
修について研究する中でそれまで研修
を「受ける」側だったのが「つくる」側に
立場が変わりました。そこから職員みん

なで学び合っている方法についてしっ
かり考えるようになった。
中村●なるほど、視点の変化があったん
ですね。では、後藤さんにとって一番辛
くなったことは何ですか。
後藤●メンターの先生のご指導ですね。
アクションリサーチ実地研究でメンター
の先生が指導案や授業についてすごく
丁寧にご指導してくださいました。直す
のは大変でしたが、その過程で指導案の
書き方や授業のやり方などを知るだけ
でなく、深く理解することができまし
た。
中村●この2年間でそれぞれ深い学び
をされたことがよく分かりました。これ
からのそれぞれの道でのご活躍を心か
らお祈りしています。
執筆 中村 向陽
(教育実践開発コース1年)



インタビューの一場面

写真左より▶
教育実践開発コース1年(ストレート生) インタビュアー) 中村 向陽
教育実践開発コース2年(ストレート生) 後藤 凌
教育実践開発コース2年(現職院生) 君岡 智央
教育実践開発コース2年(ストレート生) 高智 信行

『教育相談・カウンセリングの理論と実践』

担当 山崎 茜先生

この講義では、多様なバックグラウンドをもつ児童・生徒や保護者との関係性を築く際に必要なマインドセットとスキルを理解し、習得することができます。

この講義は、教育相談に関わる基礎的な理論を学ぶこととそれに基づいた実践的な演習を組み合わせ構成されています。特にロールプレイ形式のカウンセリング演習では、事例を検討し、演習を行い、フィードバックを受けるという一連のプロセスを通して、深い洞察を得たり、自身の対応力を高めたりすることができます。他の受講生との意見交換も活発で、異なる視点を共有する中で新たな気づきを得る機会にもなります。この講義を通して、受講前に抱いていた教育相談のイメージが大きく変わりました。

この講義は、教育現場で直面する課題に対する実践的な知識とスキルを提供してくれる大変有意義なものです。その効果を最大限に引き出すためには、受講者自身が積極的に参加し、学ぶ姿勢をもつことが不可欠です。ぜひ、意欲をもって臨み、多くの学びを得てください。

執筆 溝田 開 (教育実践開発コース1年)

『道徳・人間関係教育領域の開発実践』

担当 宮里 智恵先生

この講義では、これまで学生自身が受けてきた道徳の時間の授業と比べながら、今の学校現場が目指している道徳科の授業について理解を深めていきます。また、教材の中でポイントになる場面や、子どもに考えてほしいことを見つける視点を学ぶこともできます。

講義の中心は、グループごとに指導案検討をして模擬授業を行うことです。模擬授業に取り組む中で、講義で学んだ理論の大切さを感じるとともに、児童・生徒役からの思わぬ反応への対応の難しさも痛感します。その後、受講生や先生方からフィードバックをもらい、授業を改善して再挑戦します。受講者全員で考えを出し合いながら、教師と児童・生徒全員で主題に対して考えを深めていく道徳科の授業の実現をめざしていく中で、授業づくりのおもしろさも実感することができます。

経験の有無や学校種を超えて議論して、道徳科の授業実践や道徳教育に対する考えを深め合ったことは、学校現場における道徳教育全体に生かすことができるものです。ぜひ受講してみてください。

執筆 安田 光伯 (教育実践開発コース1年)

授業紹介

高等学校化学における 批判的思考に関する実践的研究

井 寛海 (教育実践開発コース2年)

21世紀は「知識基盤社会」の時代と言われ、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層必要になると言われています(中央教育審議会、2005)。このような中で、これから必要とされる能力として批判的思考力への関心が高まっています。

理科教育における批判的思考の研究では、批判的思考の一つである「反省的な思考」の育成に課題があるとされています。そこで、自分の意見を明確にして意識的に振り返ることや、振り返りの視点を明らかにしたうえで自分の考えを振り返りながら課題に取り組むことを通して、「反省的な思考」を促進できるのではないかと考えて授業実践を行いました。調査・分析の結果、考案した指導法の有効性は確認できませんでした。指導法の再検討に向けての重要な示唆を得ることができました。

今後も、他から得た情報を鵜呑みにせず再考したり、自分の考えを批判的に振り返りながら形成したりすることができる生徒を育成するための実践研究を続けていきたいです。

私の研究

院生の研究内容をご紹介します!

子どもが当事者意識を高める 「地域とともにある学校」づくりに関する研究

山本 竜太 (学校マネジメントコース2年)

所属校では、「先生、次は何をすればいいですか」と教師に許可を求めたり指示を待たたりする子どもの実態がありました。これは子どもだけの課題ではなく、大人が子どもに「させる」関わり方をしていたことが大きな原因であることに気がきました。

教職大学院で学ぶ中で出会った東井義雄の教育観に着目し、子どもが「する立場」に立つことが主体的に人生を歩んでいくために重要なことだと考え、それを基盤としたアクションリサーチ実践研究を行いました。教職員、地域の方々、保護者など、子どもに関わる大人が協議し、めざす子ども像(地域が好きな子、考える子、伝え合う子、やってみる子)を設定しました。そして、それに向けて大人のベクトルをそろえ、子どもへの関わり方を「させる」から「ともに」へ変えていくことで、子どもが当事者意識を高める環境が整っていききました。

今後も子どもと「ともに」、教職員、地域の方々、保護者など、子どもに関わる大人と「ともに」、試行錯誤しながら「学校づくり」に取り組んでいきます。

ご指導いただいている先生方の教育・研究より

先生のおすすめの1冊

学校で行われる授業を的確に観察し、
深く掘り下げたコメントができる能力が重要です

教育実践開発コース

池田 史志 先生

いけだ さとし

大学院人間社会科学部研究科 准教授
専門分野: 美術教育学



池田先生は、美術教育学を専門にされています。特別支援学校での勤務経験を活かし、障害児の美術教育にも取り組まれています。最近では、福祉分野や美術館、広島県と連携し、障害児・者が美術館にもっと来られるようにするための研究も行われています。

今回おすすめいただいた本は「啓発された眼: 教育的鑑識眼と教育批評」(E.W.アイスナー 著 池田史志・小松佳代子訳 新曜社 2024)です。教職大学院の修士生には教員として現場で活躍することが期待され、さらには学校を牽引する役割が求められます。そのためには、学校で行われる授業を的確に観察し、深く掘り下げたコメントができる能力が重要です。そこで必要となるのが教育的鑑識眼と教育批評です。

本書では、教育的鑑識眼として、授業を観察し、質的なものをつかみ取る方法が具体的に示されています。例えば、意図的な次元、構造的な次元、カリキュラム的な次元、教授学的な次元、評価的な次元という五つの次元があり、見取ったことを各次元においてどのように考察すればよいか詳しく書かれています。さらに、見取ったことをどのように伝えればよいかという教育批評についても書かれています。

このように、本書は教育実践の複雑な営みを捉えるのに役立つ内容が盛り込まれています。手に取ってみたいかがでしょうか。



執筆
山田 祐希
(教育実践開発コース1年)

後藤 啓佑
(教育実践開発コース1年)

『啓発された眼: 教育的鑑識眼と教育批評』
(E.W.アイスナー 著 池田史志・小松佳代子訳 新曜社 2024)

自分がなぜ教職についているのか、何をめざしているのか、改めて振り返るための視点を
与えてくれる一冊です

教育実践開発コース

岡村 美由規 先生

おかむら みゆき

大学院人間社会科学部研究科 准教授
専門分野: 教師教育学



岡村先生は、教師教育学や教育哲学を専門にされていて、教育哲学に基づいた教師教育学の研究・実践に取り組まれています。

今回おすすめいただいた本は『村井実著作集1 教育学入門』(村井実 小学館 1988)です。本書は、広島文理科大学(広島大学の前身)教育学科を卒業された村井実先生が、教育学とは何かについて体系的に論じた著作です。難しい内容が平易に書かれていながら、教育についての様々な領域で特に考えるべきことにふれられています。さらに、村井先生の主張を支える思考が分かりやすく述べられています。

この本のおすすめポイントは、自分がなぜ教職についているのか、何をめざしているのかという自分の志について、改めて振り返るための視点を与えてくれるところ。特に「善さ」に関する議論は、「人間はだれでも善くならうとする存在である」という村井先生の人間観が色濃く反映されており、教職について改めて考えるきっかけになります。

今回、岡村先生に本を読むためのポイントを伺いました。岡村先生のおすすめは、図書館に行き、並んでいる本を手にとってみる。ことだそう。また、自分と本の相性は時期によって変わるので、今、読めないと思っている本も時間が経つと読めるときがあるという言葉をいただきました。改めていろいろな本との出会いを大切にしたいと思いました。



執筆
片岡 三佳
(学校マネジメントコース1年)

原田 真純
(教育実践開発コース1年)

『村井実著作集1 教育学入門』
(村井実 著 小学館 1988)

この本が困難に直面した際の人生の支え、
励みになることを願っています

教育実践開発コース

木下 博義 先生

きのした ひろよし

大学院人間社会科学部研究科 教授
専門分野: 理科教育学



木下先生は、理科教育における批判的思考力やメタ認知能力の育成に関する研究を専門にされています。また、ICT教材やAR教材を活用した科学的概念理解の促進、合意形成能力の育成など、多岐にわたる教育実践研究にも取り組まれています。

今回おすすめいただいた本は「置かれた場所で咲きなさい」(渡辺和子 幻冬舎 2012)です。ノートルダム清心学園の理事長を務められた渡辺和子先生が、自分のいる場所で最善を尽くすことの大切さを説いた著作です。難しい内容ではないため大変読みやすく、心に響くメッセージが綴られている本です。

木下先生が本書を推薦された理由は、辛い状況下でも、根を張り耐え忍ぶことで、やがて花を咲かせる力が育まれると伝えていて、また、「自分がしてほしいことを人に与えなさい」という教えを通じ、欲望に振り回されず、他者への思いやりをもつことの重要性を強調しているからだそうです。

また、木下先生はこの本が人生の支えになると感じ、就職後の困難に直面した際の励みになることを願って、毎年ゼミの卒業生に贈られているそうです。私も普段の研究が思うように進まず、困難なときもありますが、そのときにこの本を読んで、励ましの力をもらいたいと思います。



執筆
牧原 海大
(教育実践開発コース1年)

真野 秀隆
(教育実践開発コース1年)

『置かれた場所で咲きなさい』
(渡辺和子 著 幻冬舎 2012)

編集後記 / 第12号

ニュースレター第12号をご覧いただきありがとうございます。今回は、広島県立教育センターとのコラボ研修会、そして修士生インタビューを掲載しました。お世話になった先輩方の今後のご活躍を心よりお祈りいたします。最後に、研究発表会などでお忙しい中、インタビューにご協力いただいた先生方、院生の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

担当 / 天岡 友穂
(教育実践開発コース1年)